

toVO トヴ+
PLUS

www.tovo2011.com

SEASON 2



NO. **023**

20140211

あおもりの100家族 わたしたちのこれから。





www.tovo2011.com



インタビュー

今号のご家族 ▶ 竹森 幹さん・美媛さん・仙ちゃん
かん みおん せん

撮影場所 ▶ bambooforest (弘前市)

●2011年3月11日のこと、覚えていますか？

▶美媛さん「その頃は東京で3人で暮らしていたんですが、仙ちゃんはまだ生後5カ月で、その日は居間で寝ていました。わたしはお風呂掃除中で、「ん？揺れる！大きい！」と慌てて仙ちゃんを抱いて、すぐに逃げられるように玄関の戸を開けてましたね。キャーッ！とか、助けてー！って叫んでました。仙ちゃんは泣くこともなく、そんな私をポーッと見上げてましたね。」

▶幹さん「僕はその時、環七(東京23区内を環状に走る都道)沿いの雑居ビルの5階のオフィスにいました。電柱や信号機が揺れていて凄かったですよ。信号が機能停止したんで、車は動けず、渋滞を起こしていました。道を歩いていたお婆さんが、揺れの中で、その辺のモノにしがみついているのも見えました。職場では普段寡黙な社長がムクッと立って「逃げるぞ」って言ったのを覚えています。余震が続く中、家まで自転車で飛んで帰りました。この人(美媛さん)、地震苦手でしたから。多分最速でしたよ、そんな時の自分！」

●その後はどのようにされてましたか？

▶美媛さん「いつでもすぐに仙ちゃん連れて走れるように、おんぶ紐を付けてました。結構余震が続いてましたから…。緊急地震速報が何度も鳴っていたのを覚えています。」 ▶幹さん「卓上コンロで調理したり、停電はなかったんですけど、節電の為にランタン使ったりしてました。東北に電気送らなきゃって。あとはPC使って情報収集。Twitterで連絡取り合ったり。兄が仙台にいたんですけど、1~2日連絡取れなくて

心配しました。」 ▶美媛さん「その後、福島第一原発の事故があってから、東京から避難する人が出てきて、友人もハワイに行きました。うちも小さい子供がいましたから、祖母の暮らす京都への避難を決め、1週間くらいいましたね。」

●震災以降、変化はありましたか？

▶幹さん「地震の4日前にDOMMUNE(ドミュン。ライブストリーミングチャンネル)で、鎌仲ひとみさん(ドキュメンタリー映画監督。代表作に『六ヶ所村ラブソディー』や『ヒバクシャ 世界の終わりに』、『ミツバチの羽音と地球の回転』等)が出ていた対談番組を見てたんですよ。意識が“知る”という方向に向いた矢先の3.11でしたので、より強く“知る”ことの重要性を感じるようになりました。小さい頃に母に連れられて六ヶ所村の反対運動に行ったこともありましたが、もともとそういった意識が根付いていたのかもしれない。」 ▶美媛さん「水や食料等、仙ちゃんの触れるもの、口に入るものを考えて青森へ移ってきました。放射線だけではなく、添加物や肉だったら、その動物はどんな餌を摂っていたのかとかまで“知る”努力を続けています。」

●10年後は？ ▶幹さん「10年後も青森にいれたらイイな。六ヶ所に何も起きずに…。せつかく青森帰ってきて親孝行できてるんで、このままでいればイイな。」 ▶美媛さん「子供があと2人増えてたらイイな。」 ▶幹さん「岩木山見て暮らしたらイイね。」終

定期購読のお申し込み 1年間の定期購読を承ります。1,500円(送料・寄付金) / 1年間(12号)です。ご希望の方は、「郵便番号・ご住所・お名前」を明記の上、メール(info@tovo2011.com)にてお申し込みください。シーズン1(No.000~No.011 / 12号セット)は、1,500円で販売中です。

編集後記 撮影日、ルネスアベニューから新店舗(弘前市代官町20-1)へと引越し作業中だったbambooforest。子供も大人も楽しい外遊び&科学幾何学おもちゃから、アパレル、DVD等が揃うお店。朝から大雪となった弘前でしたが、お構いなしに元気120%の仙ちゃん。そんな彼を見守るパパママを見ていて、こちらも幸せな気分。親子の当たり前の姿かもしれないが、その有り難さに気付かされるインタビューとなりました。幸せを続けるために“知る”努力。そして“続ける”ことの重要性。日々勉強、日日は好日？【なるみしう】

東日本大地震・津波被災者チャリティー

tovo トヴォ

2011年6月~2013年12月25日まで

¥2,087,325

を寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

【tovo/トヴォ】は、2011年3月11日の東日本大震災によって、親を失った子どもたちを、青森から支援するプロジェクトです。チャリティーグッズを制作・販売し、その経費を除いた全ての収益を、長期的な子どもたちの心のケアの為、あしなが育英会へ継続的に寄付し、青森から「あなたがたのそばにいつもいますよ」と伝え続けます。ご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。



今号のご家族▶竹森 幹さん・美媛さん・仙ちゃん

撮影場所▶bambooforest (弘前市)

【インタビュー】

●2011年3月11日のこと、憶えていますか？

▶美媛さん「その頃は東京で3人で暮らしていたんですが、仙ちゃんはまだ生後5ヵ月で、その日は居間で寝ていました。わたしはお風呂掃除中で、“ん？揺れてる！大きい！”と慌てて仙ちゃんを抱いて、すぐに逃げられるように玄関の戸を開けてましたね。キャーッ！とか、助

けてー！って叫んでました。仙ちゃんは泣くこともなく、そんな私をポーッと見上げてましたね。」

▶幹さん「僕はその時、環七（東京23区内を環状に走る都道）沿いの雑居ビルの5階のオフィスにいました。電柱や信号機が揺れていて凄かったですよ。信号が機能停止したんで、車は動けず、渋滞を起こしていました。道を歩いていたおばさんが、揺れの中で、その辺のモノにしがみついているのも見えました。職場では普段寡黙な社長がムクツと立って“逃げるぞ”って言ったのを憶えています。余震が続く中、家まで自転車で飛んで帰りました。この人（美媛さん）、地震苦手でしたから。多分最速でしたよ、そんな時の自分！」

●その後はどのようにされていましたか？

▶美媛さん「いつでもすぐに仙ちゃん連れて走れるように、おんぶ紐を付けてました。結構余震が続いていましたから…。緊急地震速報が何度も鳴っていたのを憶えています。」

▶幹さん「卓上コンロで調理したり、停電はなかったんですけど、節電の為にランタン使ったりしてました。東北に電気送らなきゃって。あとはPC使って情報収集。Twitterで連絡取り合ったり。兄が仙台にいたんですけど、1~2日連絡取れなくて心配しました。」

▶美媛さん「その後、福島第一原発の事故があってから、東京から避難する人が出てきて、友人もハワイに行きました。うちも小さい子供がいましたから、祖母の暮らす京都への避難を決め、1週間くらいいましたね。」

●震災以降、変化はありましたか？

▶幹さん「地震の4日前にDOMMUNE（ドミューン。ライブストリーミングチャンネル）で、鎌仲ひとみさん（ドキュメンタリー映画監督。代表作に『六ヶ所村ラブソディー』や『ヒバクシャ世界の終わりに』、『ミツバチの羽音と地球の回転』等）が出ていた対談番組を見てたんですよ。意識が“知る”という方向に向いた矢先の3.11でしたので、より強く“知る”ことの重要性を感じるようになりました。小さい頃に母に連れられて六ヶ所村の反対運動に行ったこともありましたが、もともとそういった意識が根付いていたのかもしれない。」

▶美媛さん「水や食料等、仙ちゃんの触れるもの、口に入るものを考えて青森へ移ってきました。放射線だけではなく、添加物や肉だったら、その動物はどんな餌を摂っていたのかとかまで“知る”努力を続けています。」

●10年後は？

▶幹さん「10年後も青森にいれたらいいな。六ヶ所に何も起きずに…。せっかく青森帰ってきて親孝行できてるんで、このままでいればいいな。」

▶美媛さん「子供があと2人増えてたらいいな。」

▶幹さん「岩木山見て暮らせてたらいいね。」

【編集後記】

撮影日、ルネスアベニューから新店舗（弘前市代官町20-1）へと引越し作業中だったbambooforest。子供も大人も楽しい外遊び&科学幾何学おもちゃから、アパレル、DVD等が揃うお店。朝から大雪となった弘前でしたが、お構いなしに元気120%の仙ちゃん。そんな彼を見守るパパママを見ていて、こちらも幸せな気分。親子の当たり前な姿かもしれませんが、その有り難さに気付かされるインタビューとなりました。幸せを続けるために“知る”努力。そして“続ける”ことの重要性。日々勉強、日日是好日？【なるみしう】

【寄付総額】2011年6月～2013年12月25日まで、「¥2,087,325」を寄付することができました。ご協力に感謝いたします。